



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:0593-31-1670  
☎:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 長生きは仏法の宝と 照らされ生き抜く道がある

夏が過ぎて、静かに我が命の行方に思いを馳せる季節、それが秋ですね。盛夏の頃しきりに聞こえた蝉しぐれの声はいつしか聞こえなくなり、夜になると秋の虫たちが様々な鳴き声を聞かせてくれます。蝉や虫たちは、子孫に命のバトンを渡して束の間の短い命を終えていきます。

我々も限りあるいのちという点において彼らと何ら変るところはありません。医療や健康保険制度のおかげで、我々はご先祖方に比べて飛躍的に長寿を恵まれるようになりました。先ごろ発表された昨年の平均寿命(簡易生命表)は、男性が七九・一九歳、女性が八五・九九歳で、共に過去最高記録を更新し、女性は世界一、男性は三位です。喜ぶべきことですが、我々は長寿を当たり前と思ひ、新たな老後の不安におびえています。

長寿を喜ばない社会と、喜ぶべきことを喜ばない私たちがいます。かつて新聞の「柳壇」に

年寄は死んで下さい国のためという川柳がありました。この国に対する痛烈な皮肉が込められたドキ

とするような一句です。長寿を医療費や社会保障費の負担増と直結させる考えが高齢社会の行方に深い影を落としていることは確かです。しかし、それと共に、一人ひとりの人生において、限りあるいのちの今を生かされているという感謝や喜びが実感できないければ、どこまで長寿が実現されても不安を解決できないでしょう。

かつては、法話の締めくくりに、「長生きは仏法の宝と申します。どなたもどうぞ仏法相続にいそしまれ、日々お大事にお過ごしくださいませ」というせりふをよく聞きました。若い頃の私は「年配の方へのお愛想話だ」と聞き流していたのですが、それは間違いで、意味あることだと近頃気づきました。

長寿は嬉しいことばかりではない。むしろ、連れ合いやわが子、孫に先立たれることすら希ではない。地位も名誉も身体の自由さえ失われてゆく。だが、「永遠のいのちのつながり」に眼を開けば苦悩を乗り越えられるのです。後に続く子や孫に仏法という宝を残して生き抜く道があるのです。

## ☆行事ご案内☆

### 門信徒会例会

#### 9月21日(日)夜7時半

- ① 長寿社会の生きがいを考える
- ② 正信念仏偈の内容解説と拝読練習

#### ♪三重組コーラス♪ 8/30(土)夜7時半練習

#### ※9月5日(金)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問

#### 9月20日(土)夜7時半練習

2008御堂演奏会 11/22の参加葉書受付中。参加費(6千円)は切りは9/20(土)夜の練習日まで。9月練習日は第3土曜(27日が連研のため)お間違いなく

#### ◇キッズサンガ9月6日(土)4時お経、紙芝居、ゲーム等

◇一縁会テレホン法話11冊目の本『逃げたらあかん』発売中  
059-354-1454へお電話を。3分間の法話の流れます

◇9月21日(日)午前・午後 主催:小杉町仏教会、長寿会、三全仏婦 「物故者・戦没者 追悼法要」(光念寺様にて)

### ※善正寺のホームページいよいよ公開!

アドレス <http://www.mie-zenshoji.com/>

### ☆カンパ有難う☆

鈴木登代子様・赤井淑子様・小林様・山本様・加藤様・服部律子様・他数名の方

### ☆ホストコース☆

☆八月十二日自動手動両用鐘撞き機設置。総代さん二名が撞き初め。

☆八月十三日善正寺のホームページが公開! 仏事に関する相談、その他お悩み等気軽にお寄せ下さい。

(<http://www.mie-zenshoji.com/>)住職

と坊守のつれづれ日記」がお勧め。過去一年分の善正寺だよりがパソコン画面から全て見られます。遠く離れた子供さんにも見て戴くと嬉しいですよ。

☆総代の伊崎栄一氏が長年保護司として貢献され、八月二日、市長さんより市民功労者として表彰されました。

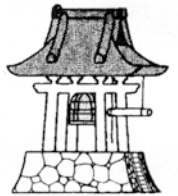


おめでとう! 栄一さん(上)

夕方5時新鐘撞き機で初めて鐘を撞く子供達(左)

### 坊守スケッチ

## 自動・手動両用 鐘撞き機



「転んで顔を怪我するなんて、奥さんも歳だなあ」と、先月号の寺報を読んだ人から口々に言われました。失敗談の反響の大きさに、我ながら読まれたことに嬉しい悲鳴をあげています。傷は治っても、その痕はなかなか元には戻りません。私の慌て者の勲章だと思つて長く付き合います。

ところで私の顔をじつと見ていた総代さんが「朝六時の鐘撞きだけでも坊守の仕事は大変だ。愛知県で自動鐘撞き機を見た。それに換えたらどう？」とアドバイスをして下さいました。以前にも言つて下さったのですが、「昔から朝六時、夕方五時の鐘撞きは坊守の仕事と決まるとる。機械で撞くなんて何と横着な！」と言われはしないかと心配していました。「あなたの代はいいかもしれないが、次の代の人々が苦勞するよ。嫁の来てもないよ」と親身に心配して下さいます。

こう言われればお墨付きを得たのも同然。コンピュータで自動的に鐘を鳴らす撞木に換えることにしました。朝六時は機械に、夕方五時は手動の両用型を選びました。今までは多少の時間のズレがありました。機械なので時間は正確、朝六時になると、鐘

堂の上に取り付けたフレームが下りて、撞木が自動的に鐘を鳴らします。その間隔は三十秒、最後は短めに設定されています。私が撞くよりははずっと丁寧で、正確との評判です。今までは朝六時の時間に縛られとても苦勞しました。特に息子達の弁当作りの時代は、六時の鐘撞きの前に歩いていました。まだ真つ暗な四時半頃に起きて、懐中電灯を下げて黙々と散歩。しかしそのおかげで夜明けの天体ショーを味わうことができ、健康維持ができたという恩恵もあります。また月末の早朝には、住職と二人寺報をバイクで配る時に、六時に一旦寺に戻り、再び配らねばなりません。今でも夏六時の鐘を済ませてから、散歩するのは日差しがきつくてたまりません。

八月十二日設置。早速総代さん二人に撞き初めをして頂きました。新しくなったことを知らない近所の方が「朝六時、無人なのに鐘が鳴っている。眼をこすつてよく見ても誰もいない。お盆だからご先祖様が戻つて撞いているのかも？何かキツネにつままれたみたい。真夏のミステリー」と感想。夕方五時の鐘は、今までどおり子供達が撞きます。鐘撞きがきっかけで初めてお寺に来る子供もいます。善正寺

の鐘は戦争のために供出され、昭和二十三年平和を願う文字が刻まれ、桑名で新しく作成されました。檀家の人々が八車で運びました。そんなご先祖の願いのこもった大切な鐘です。お寺の鐘が単なる風景ではなく、人と人とを結ぶご縁になれば嬉しいことです。

#### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆びつしよりと 野良着に汗を含ませて肩の噴霧器「ヨイシヨ」と下ろす

☆天秤の 人力借りて 普請場に瓦を降ろす ハイテクトラック

☆引き抜くも 掘り起こしても 繁茂する 地獄業の性 吾にも欲しい

☆鬼となり わが子育む 母ありて 仏の道に ただ涙する

四日市市 釈弘蓮

三重組コーラス♪

※八月三十日(土)夜七時半練習

※九月五日(火)午前・陽光苑慰問

※九月二十日(土)夜7時半練習

◇十一月二十二日の御堂演奏会(6回

目出演)参加葉書と参加費(交通費・昼食代六千円)受付中!メ切りは九月二十日(土)夜の練習日。お早めにお申し込み下さい。今年は八時半バス小杉出発

※九月の練習日は二十七日が連研の為一週間早まり九月二十日(土)夜です。

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇九月六日(土)午後四時より

子供向けのお経、ゲーム、お菓子等

善正寺ホームページの開設

1面記載の通り、このたび八月十三日より善正寺ホームページを開設しました。パソコンは苦手、とおっしゃる方は、パソコン世代の若い子や孫、特に地元を離れて生活しておられる親戚・知人の方々に「善正寺がホームページを開いたそうだから、一度のぞいたらいかが」という口コミをお願いいたします。過去一年分の「善正寺だより」がご覧いただけますし、写真による「善正寺の活動」の一端を紹介いたします。また、ブログの「住職と坊守のつれづれ日記」は、日々の見たまま、感じたままを格式ばらず、日記風に書き綴っています。そして何より、それらに対する意見や質問を自由にお寄せくださることで、双方向の意見交換できるのが最大の利点です。

「敷居が高い」といわれるお寺や住職・坊守との間で、気楽に、双方向で情報交換や議論ができれば、敷居も低くなり、皆様に支えられるお寺づくりの一助になろうかと期待する次第です。まだ店開きしたばかり、という未熟なスタートですので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。若いパソコン世代の方々等からのブログ投稿を大いにご期待申し上げます。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一七七号をお届けします。◇皆様夏バテ状態から快復されたでしょうか?味覚の秋とともに灯火親しむ秋、心身充電の秋。心豊かに生きるよう努めたいですね。合掌。

北京五輪の記念すべき年の私の誕生日に「善正寺のホームページ」が公開されました。<http://www.mie-zenshoji.com/>）  
また未完成の段階ですがこれからいろいろ教えて頂いて充実させたいと思っております。おススメは「住職と坊守のつれづれ日記」。二人が日々感じたことを各々のパソコンから投稿。共通の話題をどちらが先に書き込むか競争もすつれ合いが先に書き込んでいると急遽変更しなければならず一苦勞。就寝前に眠い目をこすりながら気ままに書く日記です。まるで散らかった部屋を公開するようなものです。勇気と根気がいりませんが続けたいと思います。また過去一年分の「善正寺だより」が全て月毎にご覧頂けるようになつております。幅広い読者の方々の反響をお待ちしております。  
このホームページの目的は、仏事のこと、悩み事等大勢の前では質問できます。お寺の門をくぐる勇気のない人々からご質問を受け付けることです。絵に描いた餅のような理想論でここまで浸透するか不安ですが、今までお寺とは無縁だったパソコン世代の人々が「お寺っていいなホッ」とできるね、あれこれ迷わなくてすむもの」と感じて頂く一助になれば嬉しいことです。先日お盆のお墓参りの帰路、立ち寄られたご家族が「本堂にお参りすると肩の荷がスーと下りて気持ち楽になる。不思議な空間ですわ」と言われました。実際お寺に来てしか味わえない雰囲気や聴聞、法友との出会いも大切にしたいと思っております。何か欲ばったお寺の活動ですが皆様の協力があればこそ継続できるものばかり。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

平成二十年 九月

合掌 善正寺坊守 拝